

時間割コード	Q4400902	開講年度	2026				
授業題目	教育方法論【第4欄】				担当教員	田村 徳至	
英文授業名	Methodology of Education						
単位数	1	講義期間	前期(前半)	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生	S
講義室	工C3-101教室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	学習指導要領の変遷を整理した後、すぐれた実践者の授業から教育内容と教育方法を学び、ICTの活用を含めた模擬的な授業を開発する演習を通して、わかる授業の授業設計と実践に向けての基礎・基本的知識と技能を習得する。						
(5)授業のキーワード	学習理論 学力観 教育実践力						
(6)授業計画	第1回：教育方法学をめぐる諸問題について学ぶ(「学力とは何か」)。 第2回：伝統的な学習理論について学ぶ。 第3回：我が国における学習理論の展開について学ぶ。 第4回：教材研究と教材開発について、授業実践例から基本的要素を学ぶ。 第5回：子ども理解と授業設計について、授業実践例から学ぶ。 第6回：授業参観と授業分析の基本を学ぶ。 第7回：教材開発の手法について、具体手的な作業を通して学ぶ。(ICT活用を含む) 第8回：各自の専攻科目に対応した学習計画を作成し、発表する。(グループ学習)(授業の最後にアンケートを実施する 15分間)						
(7)成績評価の方法	毎時間課すレポートの評価の基準 ・講義内容を正確に理解しているか(5点満点)、文章量は適切か(5点)80点 期末レポート課題 「教育方法に係わる事例に対し、自分の考えを具体的に記述する」 ・論題に正対しており、かつ具体的な教育方法が記載されているか(40点) ・文量、質ともに十分であるか(規定を守っているか)(10点) 合計130点を100点満点に換算して評価する。 【注意事項】 ・初回の講義時に詳細を説明する。						
(8)成績評価の基準	期末レポートの評価基準は、以下の通り。 ①さまざまな教育方法を正しく理解した上で、現代の教育課題に対する自身の考えを明確に述べることでできている。 ②テーマに正対した適切な先行研究(論文)の内容を1本以上踏まえた上で、その内容を自身の論に援用できている。 ③第三者が初見でも筆者の論の展開を追えるような、論理的かつ的確な説得的記述が行われている。 ④論の内容が常識的な教育方法に対して新しい見方を提示するものであれば「卓越している」。 ①から④の四項目を満たしていれば「かなり上にある」。 ①②および①③、①④の二項目ができていれば「やや上にある」。 ①ができていれば「水準にある」。 毎回課すリアクションペーパーでは、以下の三段階で評価を行う。 ①授業の内容を踏まえた上で、自分の考えを分かりやすく記述されていれば「かなり上にある」、 ②授業の内容が踏まえられていれば「やや上にある」、 ③自分なりの考えを述べることでできているならば「水準にある」。						
(9)事前事後学習の内容	【事前】本時に関係した教科書の該当ページを見ておくことが望ましい。 【事後】eAlpsにアップしたスライドを再確認しておくことが望ましい。 ※この授業は、15時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	教員免許状取得希望者は必修である。 公開授業等随時連絡をするので、講義の他に附属中学校など実際の授業実践を参観することが望ましい。 資料はeAlpsにアップするので、必ず確認しながら学ぶこと。						
(11)質問、相談への対応	オフィス・アワー：講義後等随時対応します。 メールも可。 tamura@shinshu-u.ac.jp						
(12)授業への出席	○すべての回に出席することを前提としている。 ○リアクションペーパーの提出(400字程度の記述)をもって出席とする。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	○授業内容のレジュメをeAlpsに掲載するので、それを見て学修する。適時質問することも可。						
【教科書】	○藤井喜章/小山茂喜編、「教育実習&介護等体験安心ハンドブック」、学事出版、2026年、2200円 ○自分の専門教科に関わる中学校(平成29年告示)と高等学校(平成30年告示)の学習指導要領 解説						

【教科書】	適宜、プリントや資料を配付するが、eAlpsからも必要に応じてダウンロードすること。
【参考書】	指定しない。授業内で紹介する。